

道独自の放射性物質モニタリングの平成30年度までの結果（概要）

対 象	平成30年度までのモニタリング結果	評価方法・評価基準値等
水道水	<ul style="list-style-type: none"> これまでの測定の結果、いずれの地点においても放射性物質は不検出 ※不検出とは、検出下限値（0.2～0.5Bq/kg）未満であることを示す 平成27年度4月の調査をもって当面休止 	厚生労働省が定めた水道水中の放射性物質に係る管理目標値との比較による <管理目標値> 放射性セシウム（Cs-134及びCs-137の合計）10Bq/kg
大気(観光地) [空間放射線 量率]	<ul style="list-style-type: none"> これまでの測定値は、0.012～0.072μSv/hの範囲 	<比較参考値> 震災前の道立衛生研究所（札幌市）における過去の測定値（最大0.105～最小0.020 μ Sv/h）
農地土壌	<ul style="list-style-type: none"> これまでの測定値は、放射性ヨウ素（I-131）及び放射性セシウム（Cs-134）は、いずれの地点においても不検出、放射性セシウム（Cs-137）は、不検出～14.1Bq/kgの範囲であり、右記評価基準値を下回っている 詳細データはこちらから http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/gjf/H23-26_results.pdf 	震災前の環境放射能水準調査結果との比較による [調査時期] 平成20～22年 [調査名等] 環境放射能水準調査（道立衛生研究所） [調査場所] 江別市 [調査結果] 放射性ヨウ素(I-131)：不検出 放射性セシウム(Cs-134)：不検出 放射性セシウム(Cs-137)：14～19Bq/kg乾土 （表面0～5cmの値）
海水・水産物	【海 水】 ・調査開始以降、全て不検出 【水産物】 ・調査開始以降、全ての魚種について、右記規格基準値以下または不検出 ・放射能レベルは、徐々に低下していく傾向にあり、国の基準値100Bq/kgを大幅に下回っている 平成24年に比較的高い値（最大値100Bq/kg）が検出されて以降、低下傾向をたどり、平成30年度では、放射能レベルは0.37～0.49Bq/kgまたは不検出まで低下	【水産物】 厚生労働省が定めた水産物の放射性物質の規格基準値との比較による <規格基準値> 【水産物】 放射性セシウム（Cs-134及びCs-137の合計）100Bq/kg